

案山子の作成と設置を通じて能登文化の再認識と継承を行い、 地域の共同体活動を活性化させるための取り組み

学生団体名 池上ゼミ（金沢星稷大学）

参加学生 代表 柳田拓人・野口宗紀・宮崎尚哉・長嶺淳平 全 25 名

1. 地域活動の概要

私達は今回、ゼミの活動において、奥能登、珠洲で、「横山地区案山子造り」という活動を行った。現在、珠洲では若者が珠洲の町から離れて行き、高齢化が進んでいる。我がゼミで行ったこのような活動を通して、一時的にでも珠洲に活気や若者が戻ってくる仕掛けや、珠洲市のアピールになるような活動、行事を行う事で、少しでも珠洲市をアピール出来る事に繋がりたいと考える。

2. 地域活動の具体的な内容

今回私達のゼミは7月7, 8, 9日の三日間にわたり「案山子造り」をメインの活動とした。これは横山地区に10年にわたり設置されてきた、夏の代名詞「人間そっくりなりアルな案山子」を、地域住民約30名と共作する活動を行った。それらの案山子を田んぼや畑に3ヶ月間設置した。その間に地域の方や付近を通る観光客の方たちに、案山子の人気投票を行ってもらい、地域の方や観光客にも楽しんでもらえるような活動にした。

3. 地域活動の評価

今回活動を行った地域では、祭りや伝統行事以外には、若者が集まる機会が少ない。そこで池上ゼミと地域とで連携を図り、少しでも地域をアピールできる活動を行ってきた。横山地区では「案山子作りに市長を呼んだり、新聞に掲載したりする。」など、地区のアピールを行った。その事で今回の活動が少しでも多くの人々の目に映ったと考えられる。

4. 今後、この地域活動を継続、活発にしていくために必要なもの、及び課題

今回の企画により、横山地区との繋がりを深めることが出来た。今後、池上ゼミでは地域との活動を継続、活発にしていくために必要な地域をよりアピール出来るような企画を行っていきたい。また、連帯して行う事で、我がゼミの活動の向上を図ると共に、地域と学生が連携する事で、より良い相乗効果があるような活動を行っていきける事を課題として考える。

5. 学生の感想

今回の「案山子造り」はゼミ活動の一環としての小さな活動である。しかしながら、このような小さな活動の積み重ねが、少しずつ大きな企画、活動に繋がっていくのではないかと考えられる。また、今回の活動では地域の子供達を数名招待し、共に活動を行ったが、今後はもっと沢山の子ども達が参加できるような企画を考えたい。

6. 地域からの評価

学生と交流するキッカケとなり、普段は無い学生達との会話や交流によって刺激や、生き活きとしたパワーをもらい元気が出た。また、この活動により学生、観光客、マスコミなど多くの人々が奥能登や横山地区の文化に興味、関心をもたせる事が出来た。